

令和6年8月23日（金）
第2回栗東市地方創生懇談会【資料3】

第2期栗東市総合戦略

令和5年度 各指標目標達成状況及び
実施計画の取り組み実績に対する評価について

【まち】地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる

数値目標 (KPI)

人口の社会増減数

現状

●117人（年平均：H27-H30）

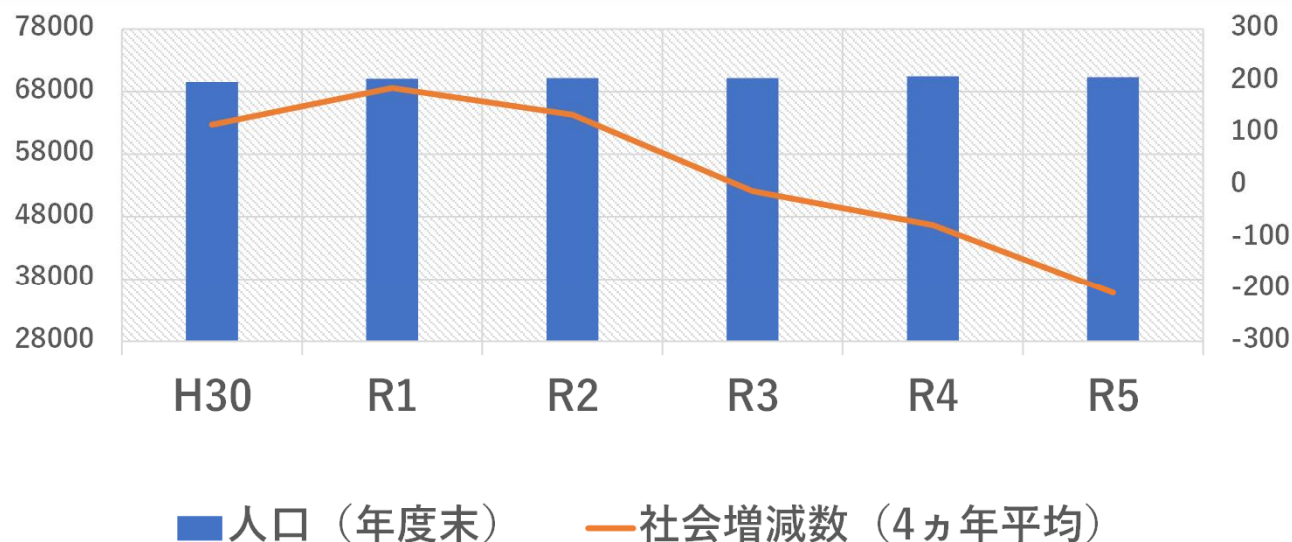
目標

●現状数の維持
（年平均：R2-R6）

令和 5 年度の達成状況

○中間評価時点 - 75.5人 未達成
○年度評価時点 - 206.5人 **未達成**

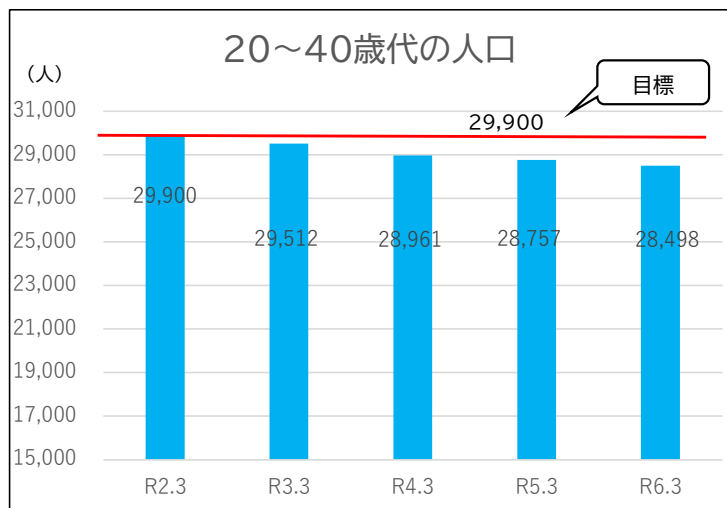
	H30	R1	R2	R3	R4	R5
人口 (年度末住 基台帳人口)	69,560人	70,042人	70,166人	70,173人	70,440人	70,290人
社会増減 (市統計書 4年平均)	+117人 (H27-H30)	+187人 (H28-H31)	+136人 (H29-R2)	-10.5人 (H30-R3)	中間評価時点 -75.5人 (R1-R4)	-206.5人 (R2-R5)



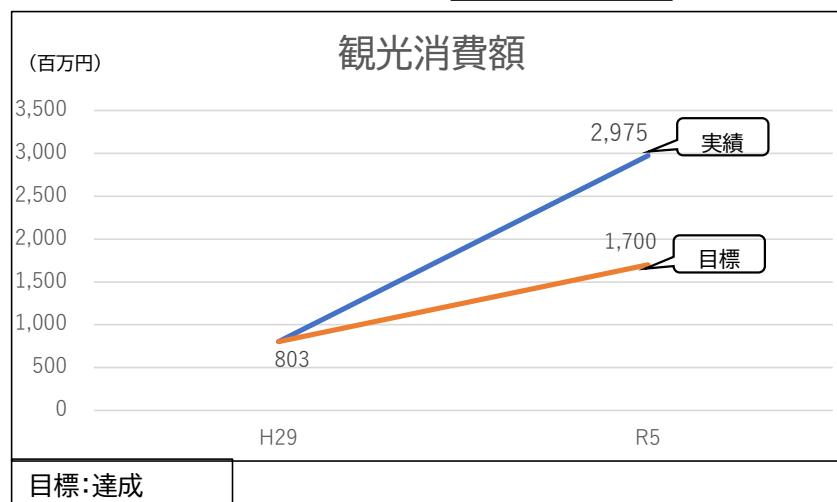
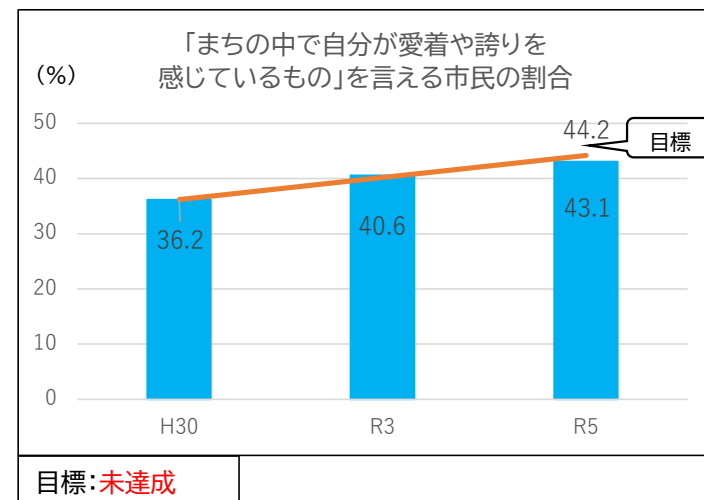
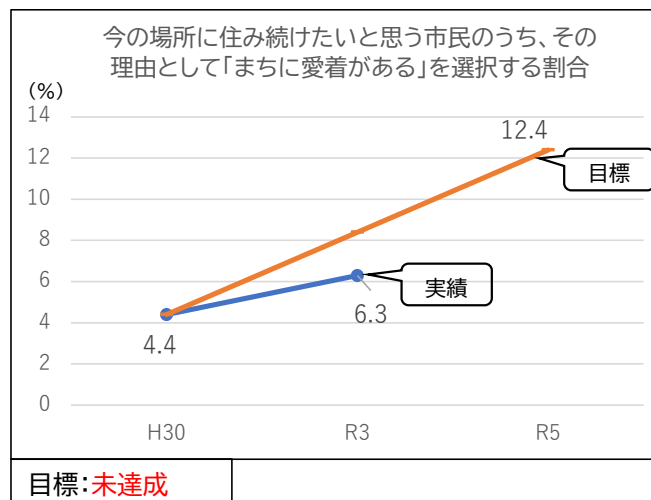
【まち】地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる

重要業績評価指標(KPI)

(1)良好な住環境の整備推進

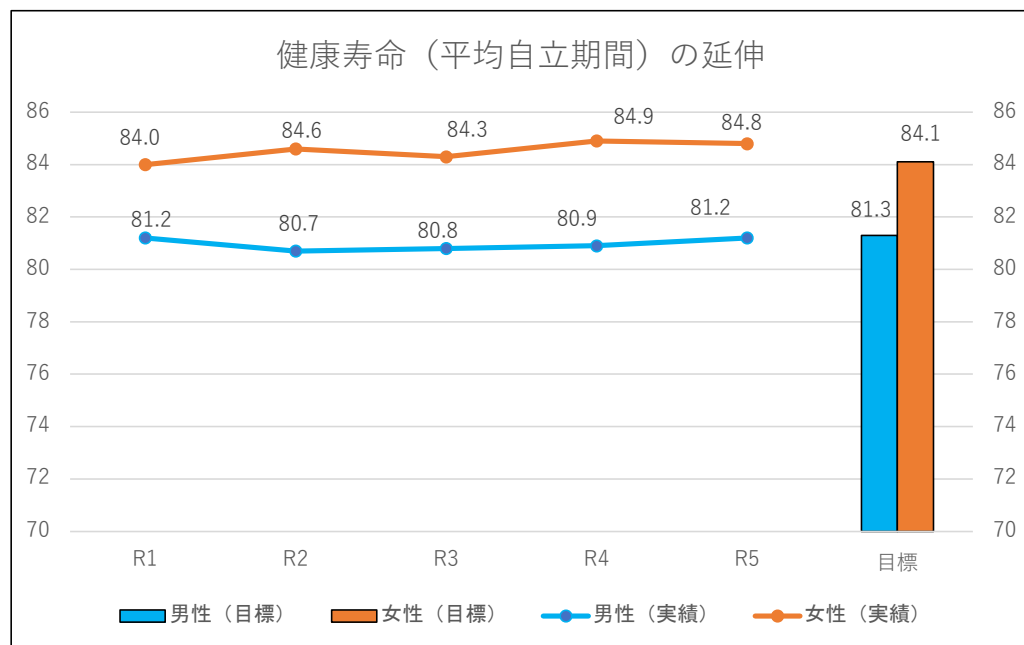


(2)地域資源を活用したシティセールスによるまちの魅力発信

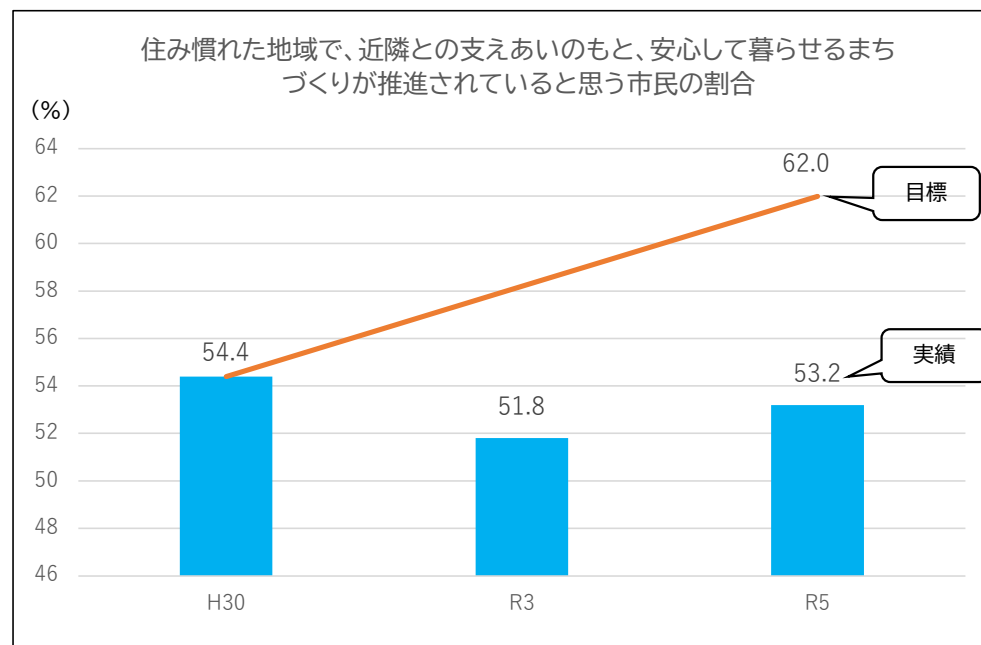


【まち】地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる

(3)誰もがいきいきと暮らせるまちづくりの推進



目標：
男性 未達成
女性 達成



目標: 未達成

【まち】地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる

具体的施策とKPI

(1)良好な住環境の整備推進

20～40歳代を中心とした、多様なライフスタイルやライフステージに合わせた居住ニーズに適切に対応するため、良好な居住環境の形成に向け、地域の利便性や快適性の向上を図るとともに、空家等既存ストックの有効活用などの諸制度を促進し、多方面との連携により移住・定住希望者を含めた住環境整備の側面的支援に取り組みました。

特に将来に向け、バランスの取れた年代人口構成となるよう、20～40歳代の年齢層の流入確保と、それらの市内での住み替えによる流出抑制等、定住促進のための支援に取り組みました。

【主な取組例】

住宅ニーズに対応した住環境の整備、空家等を利活用した諸施策の促進、公共交通の充実、社会基盤整備の促進

令和5年度に実施した主な取組（5/5）

達成割合 4/5

取組み内容	目標	中間実績 (R5.9末)	年度末実績 (R6.3末)
「りっとう空き家バンク」を活用した移住・定住の促進	空き家バンクでのマッチングによる成約数 1件	0件	2件
子育て・若年世帯空き家リノベーション補助事業の実施	子育て・若年世帯空き家リノベーション補助事業の利用 1件	0件	1件
くりちゃんバス等の利便性向上への取組み〔動態調査の実施〕	年2回動態調査を実施	1回	2回
社会基盤となる道路ネットワークの整備促進	事業費割合（進捗率） 65.95%	44.57%	57.92%
若年層の結婚に係る住宅関連費用補助による経済的負担の軽減及び移住・定住の促進〔栗東市結婚新生活支援事業の実施〕	申請件数 39件	8件	53件

【まち】地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる

(2)地域資源を活用したシティセールスによるまちの魅力発信

馬をはじめとする地域資源を広く活用し、その魅力情報を発信することにより、市民のまちに対する愛着の醸成、さらには対外的なまちのPRを図ること
で、まちの魅力度を向上させ、本市の応援者やファンなど本市にさまざまな形で関わる人の創出につなげました。

また、市民や事業者、関連団体等との連携のもとで、馬をはじめ地域資源を活かした観光事業を展開し、滞在時間を延ばす取り組みを進めました。
さらに、資源循環型社会の構築などを通じて、まちの資産である豊かな自然環境の保全に努め、快適な環境の創出を進めました。

【主な取組例】

馬を活かしたまちづくりの推進、シティセールスの推進、総合的な観光戦略の推進、資源循環型のまちづくりの推進

令和5年度に実施した主な取組(6/6)

達成割合 4/6

取り組み内容	目標	中間実績 (R5.9末)	年度末実績 (R6.3末)
馬とのふれあいができる公園整備の基本設計の実施	基本設計の実施	・周辺自治会への事業説明 ・サウンディング調査の実施	基本設計の実施継続中であり、見直しや事前ヒアリングを実施
公共施設を活用した民間事業者によるホースセラピー事業の展開	ホースセラピー事業の継続 【放課後等デイサービス】 契約者数240人、総利用件数7,200件 【発達児童支援】契約者数70人、総利用件数1,500件	集計中	【放課後等デイサービス】 契約者数259人、総利用件数 6,564件 【発達児童支援】契約者数81人、 総利用件数2,040件
ふるさとりっとう応援寄附制度等を通じた「馬のまち」のPR	馬関連商品取り扱い事業者 11社	10社	12社
市の広報大使「うますぎる栗東大使」や協働型Facebook「うますぎる栗東」を活用した市の魅力発信、クラウドファンディングを活用したくりちゃんデザインマンホール蓋の作成	・広報大使による市の情報発信 ・広報番組 年1回以上、広報紙への掲載 年6回以上 ・Facebookのフォロワー数の増加 前年比+120人 ・くりちゃんデザインマンホール蓋の設置(2か所)	広報番組0回 広報紙への掲載3回 フォロワー数+36人	YouTube配信1回 広報紙への掲載6回 フォロワー数+69人 くりちゃんデザインマンホール蓋 の設置(2か所)
こんぜめぐりちゃんバスや旧和中散本舗特別公開など、地域の特性や魅力を活かした事業等の支援	こんぜめぐりちゃんバス利用者:1,000人 旧和中散本舗特別公開来場者:1,200人	バス:393人 来場者:500人	バス:855人 来場者:722人
ごみの減量化・資源化の推進〔家庭用廃食用油リサイクル〕	廃食用油回収量 年間10,000リットル	3,600リットル	8,807リットル

【まち】地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる

(3)誰もがいきいきと暮らせるまちづくりの推進

高齢者、障がいのある人をはじめすべての人の人権が保障され、健康でいきいきと社会とつながりを持ちながら、地域社会において自らが主体的かつ安心して生活できるように、各種施策の推進に取り組みました。

特に今後老年人口が増加することから、高齢者が住みなれた地域で健やかに住み続けられるまちづくりを進めました。

また、併せて地域住民によるまちづくり活動を積極的に支援し、住みよいまちづくりの形成を図りました。

【主な取組例】

地域共生社会を実現するための地域包括支援体制の推進、介護予防・健康づくりと生きがいのある暮らしの実現、健康づくりの推進、認知症施策の推進、誰もが安心して暮らせるネットワークづくり・基盤づくりの推進、社会教育施設の整備、人権を基本とする施策の推進

令和5年度に実施した主な取組（12/13）

達成割合 7/13

取組み内容	目標	中間実績 (R5.9末)	年度末実績 (R6.3末)
地域包括支援体制の推進〔障がい福祉関係機関による相談支援の実施〕	・基幹相談支援センター、地域活動支援センター設置による総合的、専門的な相談支援の実施 ・相談支援機関による相談延べ件数 9,000件	相談延べ件数 約4,500件	・基幹相談支援センター、地域活動支援センター設置による総合的、専門的な相談支援の実施 ・相談延べ件数 8,518 件
高齢者の社会参加促進による介護予防の推進〔介護支援ボランティア事業等の推進〕	個人宅でのボランティア活動が結び付いている実件数 30件	6件	10件
高齢者自らの健康づくりの継続的な取り組み支援〔いきいき百歳体操等の実践の推進〕	いきいき百歳体操の実践団体数 77団体	77団体	75団体
認知症になっても安心して暮らせる地域づくり〔認知症サポーター養成講座等市民啓発の実施〕	認知症サポーター数 6,400人	6,123人	6,884人
地域福祉活動や地域づくり、まちづくりへの参画の仕組みづくり（コミュニティソーシャルワーカーの配置支援）	住民主体の地域活動をサポートするとともに、支援者と支援を必要とする人との結びつきを通じて、必要な人に支援が届く体制をつくります。	相談：120件 訪問同行：4件 面談：40件	相談：303件 訪問同行：4件 面談：91件
生活支援体制整備事業の実施〔生活支援コーディネーター（地域ささえ合い推進員）による住民の主体的な取り組みの支援〕	地域支え合い推進員と多様な主体が連携し、新たに開発した社会資源数 3	0	1

【まち】地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる

取り組み内容	目標	中間実績 (R5.9末)	年度末実績 (R6.3末)
手話の啓発、コミュニケーション支援の推進	・手話講座(入門課程)全24回 定員20人 ・点字体験講座 年1回 ・市の広報、ホームページ等を用いたコミュニケーション手段に関する講座等の情報提供	・手話講座(入門課程)14回終了 受講生18人 ・点字体験講座 8月5日実施 受講生8人 ・盲ろう通訳・介助者養成講座を市ホームページで情報提供	・手話講座(入門課程)全21回 受講 18人、修了 16人 ・点字体験講座 年1回 受講 8人
市民団体によるまちづくり活動の支援〔未来へつなぐ市民活動応援事業の推進〕	ふるさと納税(ふるさとりっとう応援寄附)を活用した市民活動団体新規登録団体数 1団体以上	1団体	1団体
社会教育施設の整備〔国民スポーツ大会へ向けた市民体育館の改修〕	老朽化に伴う市民体育館の改修を適宜行うことで、今後の利用者の増加を促進し、健康寿命の延伸に繋げる。	国民スポーツ大会に向けて、市民体育館の空調設備の設置等、必要となる整備を進めている	老朽化に伴う市民体育館の改修を適宜行った。 また、国民スポーツ大会に向け、R6.6月未まで延長して空調設備工事を実施予定。
「第五次輝く未来計画」の推進	地区別懇談会の開催にあたり、各自治会で身近な人権課題を取り上げ、主体的に取り組むことができた割合が40%以上。	80%	71%
デジタル田園都市国家構想交付金を活用した、要介護認定調査におけるデジタル機器の導入	訪問調査用タブレットの導入ならびに活用／認定調査員5名すべて	委託契約締結	訪問調査用タブレット(認定調査員5名分)の導入完了。
脱炭素社会の実現を目指した取組の普及〔住宅用太陽光発電システム等設置費補助〕	・住宅用太陽光発電システム設置補助申請件数 50件/年 ・住宅用蓄電池システム設置補助申請件数 50件/年 ・省エネ家電購入補助申請件数 202件/年	太陽光発電:0件 蓄電池:0件 省エネ家電:26件	太陽光発電:3件 蓄電池:8件 省エネ家電:116件

【まち】地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる

中間評価（R5.9.30時点）

一次評価

評価指標において、人口の社会増減が大きくマイナスに転じていることから、「くりちゃんバス等の利便性向上のための動態調査の実施」により、課題の抽出・検討を行い、住環境の向上に取り組んでいく必要があります。

加えて、8050問題や引きこもり等の社会問題への対応として、「コミュニティソーシャルワーカーの配置支援」や、「生活支援コーディネーターの配置支援」による総合的な課題解決を引き続き行う必要があります。

二次評価

公共交通の充実が人口増加に繋がると考えられるが、計画ではあまり力が入っていないように思える。バスだけに拘らず、栗東駅への新快速停車等のJRへの要望を引き続き行われたい。

また、地域に必要な人材であるコミュニティソーシャルワーカーを増やすため、資格取得や養成していくための支援をしていたきたい。

年度評価

一次評価

数値目標の“人口の社会増減”は令和3年度より減少に転じており、減少幅は年々、増加傾向にあります。また、重要業績評価指標KPIのうち“20～40歳代の人口維持”についても、数値が低下傾向にあります。このことから、空き家の利活用やくりちゃんバス等の利便性への取組など、良好な住環境の整備を促進し、転出抑制への取組をさらに強化する必要があります。

また、誰もが役割を持てる地域共生社会の実現に向け、「コミュニティソーシャルワーカーの配置支援」や、「生活支援コーディネーターの配置支援」を継続して行う必要があります。

二次評価

※地方創生懇談会にて意見をうかがいます

【ひと】若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

数値目標 (KPI)

合計特殊出生率

現状

●1.98(H29)

目標

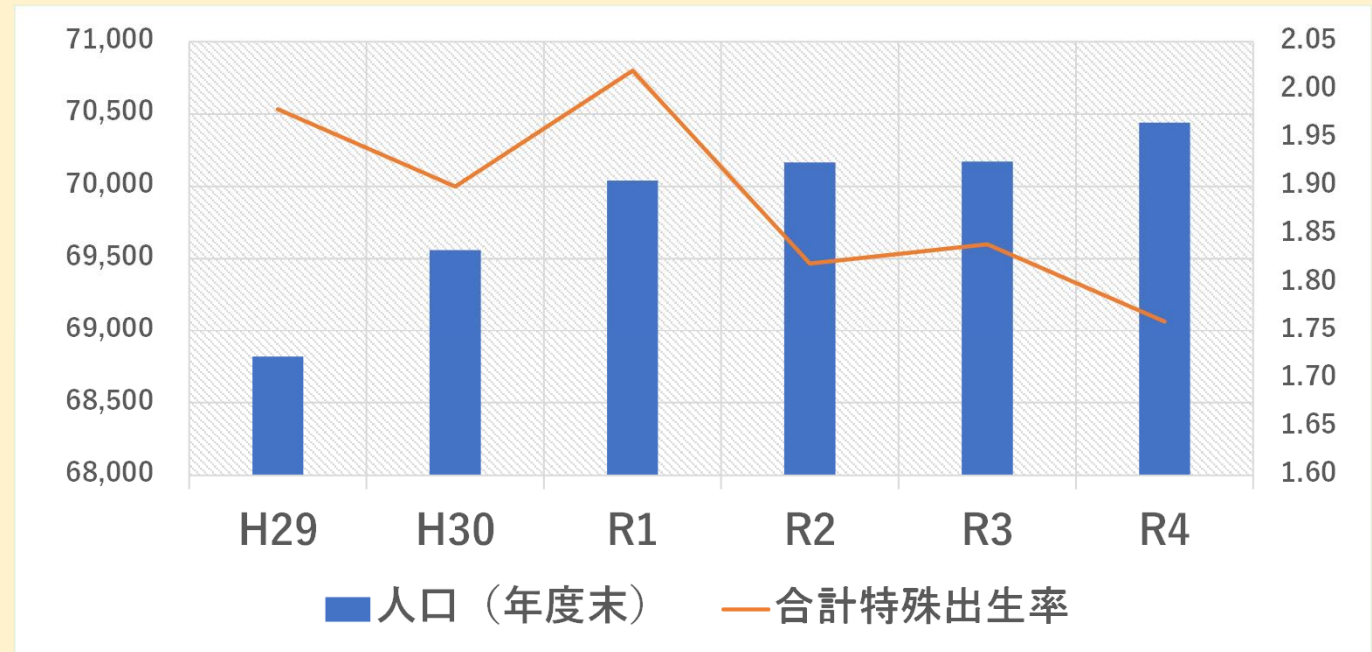
●現状値の維持(R6)

令和5年度の達成状況

○中間評価時点 1.84 未達成

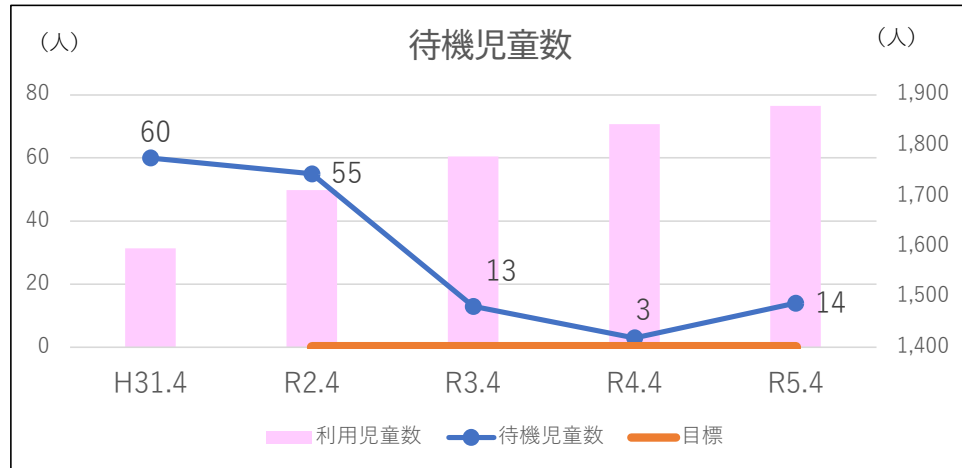
○年度評価時点 1.76 **未達成**

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
人口	68,817人	69,560人	70,042人	70,166人	70,173人	70,440人
合計特殊出生率	1.98	1.90	2.02	1.82	1.84	1.76



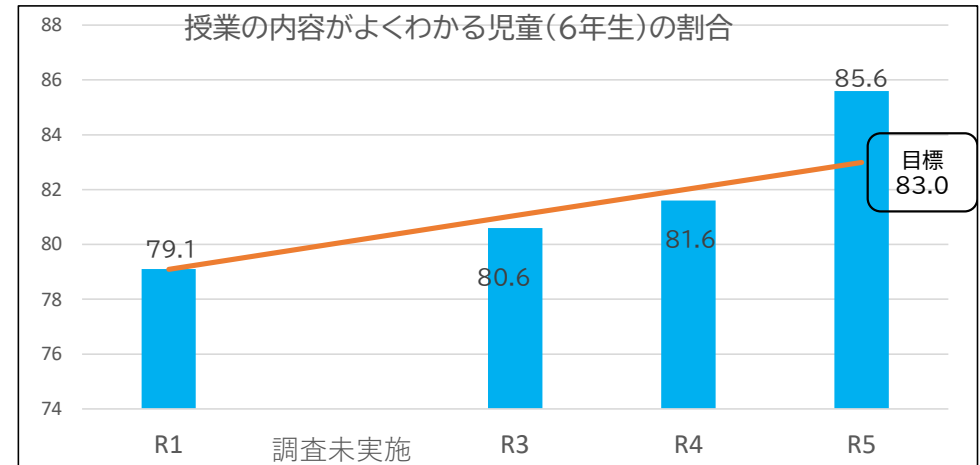
【ひと】若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

(1) 妊娠・出産・子育てをつなぐ安心の支援



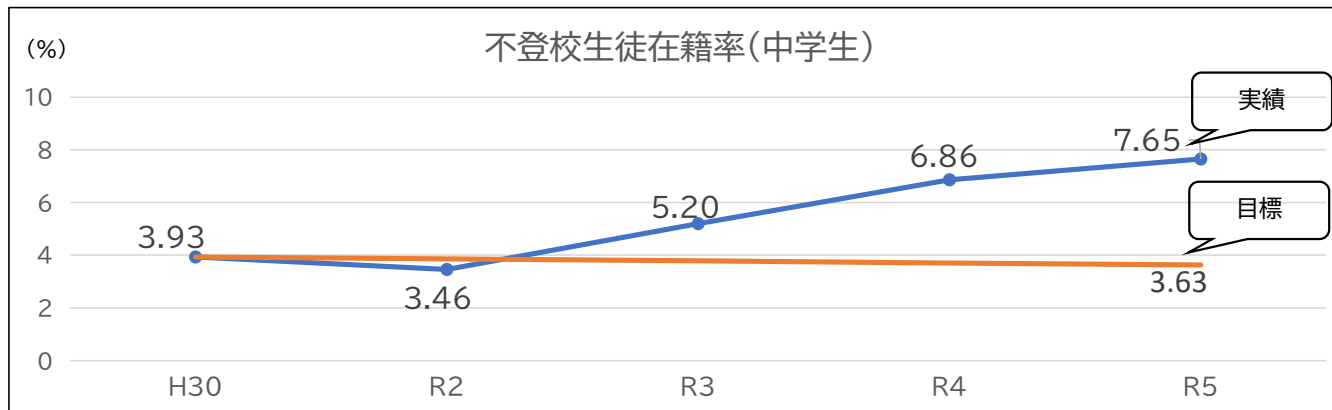
目標: 未達成

(2) 確かな学力と生きる力を育む教育環境の整備



目標: 達成

(3) すべての子どもの育ちの支援



目標: 未達成

【ひと】若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

(1)妊娠・出産・子育てをつなぐ安心の支援

関係機関が連携する中、妊娠期から子育て期にわたる様々なニーズに対する相談支援体制をより一層充実させるとともに、適切な時期に適切な支援を提供し、子育てサークルとの協働による事業の展開を図りました。

また、保育所等の整備や保育士の確保、就学前保育への民間活力導入などにより待機児童の解消を目指したとともに、ニーズに合わせた保育機会の提供により就学前保育の充実を図ります。併せて学童保育の充実等、放課後の居場所づくりを進めることにより子育てと仕事の両立を支援しました。

さらに、出産・子育てに要する経済的な負担を軽減するため、妊娠から子育てに至る医療にかかる負担、保育等にかかる負担の軽減を図るための取り組みを推進しました。

【主な取組例】

妊娠期から子育て期にわたる相談支援体制の充実、支援の推進、待機児童の解消に向けた取り組み推進、出産・子育てに関する経済的負担軽減の取り組み推進

令和5年度に実施した主な取組（6/8）

達成割合 7/8

取り組み内容	目標	中間実績 (R5.9末)	年度末実績 (R6.3末)
学童保育所・地域子育て支援センター・児童館の充実〔運営の充実及び施設の維持補修〕	・学童保育所において、今後も入所希望児童の増加が見込まれる小学校区については、民設学童保育所設置・運営事業者を募集し、受入施設を整備する。 ・緊急性・安全性を踏まえ、優先度を判断しながら各施設の維持補修を行う。	・民設学童保育所設置運営事業者4小学校において、3小学校区で事業者からの応募があった。 ・学童保育所の空調設備の設置。その他の不具合箇所については、随時緊急に対応。	・3小学校区において、公募により運営事業者を決定。 ・学童保育所の外壁補修工事や床改修工事等を実施。
民間活力の導入〔民間事業者が運営する私立保育園等の新たな施設整備〕	民設民営化等の取組を進め、待機児童の解消に繋げる。また、公立園のこども園化の取組も併せて進める。	法人園の新設の公募を開始	公立園のこども園化 2園 法人園(認定こども園)の公募 1園
就学前教育・保育の人材(潜在保育士含む)の確保〔保育関連就職説明会や研修会の実施〕	保育のおしごとフェアや相談会・研修会の実施により、5名の保育士の雇用につなげる。	「りっとうde保育のおしごとフェア」を1回実施。参加者15名	年間通して、保育のおしごとフェアや相談会を実施。 市内園への就職:9名
福祉医療費の助成〔子ども医療費助成事業(小学生)、乳幼児福祉医療費助成事業を実施〕	乳幼児および子ども医療費受給券の発行率98%以上 ※制度に該当している方の申請漏れがないように申請勧奨等を行う。	発行率:99.3%	受給券交付率: 乳幼児 99.4% 子ども(小学生)99.8%

【ひと】若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

取り組み内容	目標	中間実績 (R5.9末)	年度末実績 (R6.3末)
赤ちゃんおむつ費用助成事業	子育て家庭の経済的負担を軽減し、安心して子育てができる環境を整備する。また、ホームページや広報、SNS等で対象者に広く制度を周知する。	ホームページや広報、SNS、関係機関等を通じて制度を周知できた。 ・申請者数 292人 ・申請率91.3%	・対象者(1歳未満の乳児)725人のうち720名に対し給付を実施。
ふたご・みつご出産就学支援助成事業	ふたご・みつごを養育する世帯の経済的負担を軽減し、安心して子育てができる環境を整備する。ホームページや広報、SNSや関係機関等を通じ、対象者に広く制度を周知する。	・ホームページや広報、SNS、関係機関等を通じて制度を周知。 ・出生4組、小学校入学4組、中学校入学5組、高等学校入学7組に給付を実施	・出生12組、小学校入学5組、中学校入学6組、高等学校入学9組(うちみつご1組)の全対象世帯に給付を実施。

(2)確かな学力と生きる力を育む教育環境の整備

知・徳・体の調和の取れた、心豊かでたくましく生きる人材育成を目指す中で、子どもの学ぶ意欲の向上に向け外国語指導助手の派遣や情報通信技術(ICT)の活用などとともに、基礎学力の定着に向けた学習活動の実施、教育環境の整備、充実を図る中、次代を担う子どもの健全育成を図りました。

【主な取組例】

子どもの確かな学力の向上、学校ICTをはじめとする教育環境の整備、地域に根差した食育の推進

令和5年度に実施した主な取組 (7/8)

達成割合 8/8

取り組み内容	目標	中間実績 (R5.9末)	年度末実績 (R6.3末)
学ぶ意欲や基礎学力の向上及び「きらりフルチャレンジ」「栗東子育て教育Nextプロジェクト」の推進	・授業の内容がよくわかる児童(6年生)の割合83%(R5目標値)を達成するために、ICTを活用した「くりちゃんチャレンジ」による基礎学力の定着を図る。 ・「栗東子育て教育NEXTプロジェクト」に基づいた取組を市内保幼小中学校で進める。	・「くりちゃんチャレンジ」を進め、CBTによる確認テストを2回実施。直しも含めて達成率が100%になるまで取組。 ・「栗東子育て教育NEXTプロジェクト」に基づいた取組を保幼小中の連携を図りながら実施。	・授業の内容がよくわかる児童(6年生)の割合:85.6%。 ・「くりちゃんチャレンジ」を年間3回の実施。 ・「栗東子育て教育NEXTプロジェクト」に基づき、栗東の子どもに付けたい非認知能力を明確に示し、家庭や地域への啓発を実施。

【ひと】若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

取り組み内容	目標	中間実績(R5.9末)	年度末実績(R6.3末)
学校施設・設備の充実〔GIGAスクール構想で配備した機器の利活用〕	各校において、ICTの効果的活用法を視点においた授業公開を1回以上するとともに、モデル校の公開授業を1回以上参観し、担当者の自己研鑽と各校の授業改善への啓発を行う。	授業公開は12校中5校、校内研修は12校中8校で実施。模擬授業としては8月にも研修と併せて実施した。モデル校による公開授業は今後予定。	各校において情報教育セキュリティ担当者ならびに情報教育主任を中心に活用が進み、ほぼ全教員がICTを活用した学習を行うことができた。児童生徒についても、学習におけるタブレット活用スキルが向上した。
学校施設・設備の充実〔公立学校施設大規模改造事業の推進〕	小学校・中学校の施設整備により、確かな学力と生きる力を育む教育環境を充実させる。	大規模改造事業(LED化、グラウンド改修含む)3校	・大宝西小学校大規模改造事業 ・葉山中学校グラウンド改修設計業務 ・栗東中学校LED化事業 計3校における教育環境改善事業を実施。
給食等を通じた食育の推進〔地元食材を活用した給食等〕、〔週5日の完全給食実施〕	「栗東食材の日」を中心に、月1回の「食育の日」と関連付けて食育を進める。	各校で月1回、「食育の日」を設け、食育を推進	・継続的な「食育の日」による取組を実施 ・和食の良さ、食品に含まれる栄養素や体内での働きについて、栄養教諭による放送資料や食育授業を通じて児童生徒に案内。
	11か園で食育活動を推進する。	・保育活動として野菜の栽培、収穫を喜び食べる楽しさを体験。 ・保護者に向け給食日より食の大切さを発信	・栽培や収穫を通じ食への関心向上を図った。 ・毎月の給食日より、簡単な調理レシピを掲載して、家庭においても旬の食材による手作りの良さを伝えた。
給食等を通じた食育の推進〔週5日の完全給食実施〕	食数増加による様々なリスクに備え、安心安全な給食を実施し、食育を推進する。〔週5日の完全給食実施9月～〕	R5.4月～7月 1日約4,500食～約7,200食 ↓ R5.9月 1日約7,500食	調理環境の整備や委託業者との連携により、小中学校の週5日完全給食およびセンター給食幼稚園の週5日給食を実施した。R5.9月～1日約7,500食×週5日
生産者と消費者の交流の促進〔農業体験事業や伝統食・郷土料理体験〕	農業体験学習である「たんぼのこ事業」を全小学校で実施 9校	たんぼのこ事業全小学校で実施(9校)	たんぼのこ事業全小学校で実施(9校)

(3)すべての子どもの育ちの支援

幼少期から青年期に至る子どもへの支援、特に特別な支援を要する子どもへの福祉と教育をつなぐ支援などを行うため、特別支援、要保護児童、不登校などへの支援体制のさらなる充実を図りました。

また、地域全体で子どもの健やかな成長を支える環境づくりを推進するとともに、各校園、家庭児童相談室、児童相談所等関係機関との円滑な支援連携に努めました。

【ひと】若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

さらに、保育・教育分野における情操教育の一環として、馬を活かした取り組み検討を行いました。

【主な取組例】

すべての子どもの健やかな育ちを支える環境の整備、充実、生活困窮世帯の自立に向けた子ども学習等支援、馬を活かしたまちづくりの推進【再掲】

令和5年度に実施した主な取組（7/9）

達成割合 7/9

取り組み内容	目標	中間実績 (R5.9末)	年度末実績 (R6.3末)
様々な発達支援サービスの提供	巡回専門員派遣回数70回	巡回専門員派遣回数38回	巡回専門員派遣回数66回
不登校児童・生徒等に対する支援〔学校サポート支援員の設置〕	不登校児童生徒の在籍率の低減を進める	・学校サポート支援員を不登校対応として1名配置。 ・不登校児童生徒に対してのICT活用を促進	・市内小中学校に学校サポート支援員を配置し、不登校、不適応児童生徒の支援を実施
いじめ対策の推進〔いじめ等対策参事員の設置〕	いじめ要因の不登校児童生徒がいない	・いじめに係る学校訪問を市内各小中学校を対象に実施	・いじめに係る学校訪問を市内各小中学校を対象に各2回実施
不適応児童・生徒の支援〔スクールソーシャルワーカーの設置〕	家庭的要因による不登校生徒の減少	家庭的要因を早期に発見するために、スクールソーシャルワーカーが効果的に活動を推進	市内に、スクールソーシャルワーカーを2名配置し、家庭環境が要因となる児童生徒に対する支援を実施
子どもへの学習支援及び保護者も含めた生活習慣・育成環境の改善に関する支援の実施	家庭的要因による不登校生徒の減少	学校と保護者の間に立ち、子育て不安の解消に努め、子どもの育ちを支えることができた。	家庭教育支援員を1名配置し、保護者の支援を実施
福祉や教育分野における馬の活用検討	公立・私立園の5歳児を対象に、公立・私立園あわせて20か園で実施する。	保育の中で取り入れる具体的な内容を検討	・20か園で馬に親しむ取り組みを実施。 ・5歳児による掲示物を作成し庁内ロビーへの展示により、広く市民に見ていただく機会を設けた。
生活困窮世帯の自立に向けた子どもの学習支援や居場所づくり	居場所づくりの提供や、学習支援を実施します。 学習会の実施(2か所) 参加人数:15人	学習会の開催場所(2か所) 参加人数 18名	学習会の開催場所(2か所) 参加人数 17名(内見学1名)

【ひと】若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

中間評価（R5.9.30時点）

一次評価

不登校生徒在籍率低下の取り組みとして、「学校サポート支援員の各校配置」、「いじめ等対策参事員の設置」や、家庭的要因への対策として「スクールソーシャルワーカーによる支援」を行っていますが、不登校生徒が増加傾向にあり、その対応にかかる人的資源が不足しています。不登校生徒すべてに関わるには、増員等の検討が必要とされています。

評価指標においては、数値目標(KPI)の合計特殊出生率が更新され、令和3年数値は1.84と令和2年数値1.82から増加しています。本市の特徴である、高い合計特殊出生率の維持向上のために、「栗東市結婚新生活支援事業の実施」や「赤ちゃんおむつ等の購入費用助成」など、結婚・出産・子育てへの一貫した支援を引き続き行っていく必要があります。

二次評価

人的資源の不足について、現実的に人口減少の中での増員は難しい。国がデジタル田園都市国家構想としてICTの活用を推進していることから、今後はICTを活用して人材不足をカバーしていく必要があることを踏まえ、不登校生徒等の問題に対応されたい。

出生率を高めるために、独身世帯に対する結婚支援等を県と連携しながら進めたい。

年度評価

一次評価

数値目標の“合計特殊出生率”は減少傾向にあるものの、全国的に見れば高い水準にあります。本市の特徴である、高い合計特殊出生率の維持向上のために、「栗東市結婚新生活支援事業の実施」や「赤ちゃんおむつ費用助成事業の実施」など、結婚・出産・子育てへの一貫した支援を継続して行っていく必要があります。

重要業績評価指標KPIのうち“待機児童数の解消”については、利用児童数の増加により、待機児童が増加傾向にあることから、法人園の新設や公立園のこども園化、保育人材の確保等に引き続き取り組む必要があります。

また、“不登校生徒在籍率”が増加傾向にあることから、引き続き「学校サポート支援員の各校配置」、「いじめ等対策参事員の設置」や福祉と教育をつなぐ「スクールソーシャルワーカーによる支援」の継続が必要です。

二次評価

※地方創生懇談会にて意見をうかがいます

【しごと】立地条件を活かし、安心して働ける産業雇用体制をつくる

数値目標 (KPI)

事業所立地数

現状

●2,838件 (H28)

目標

●現状値の維持 (R6)

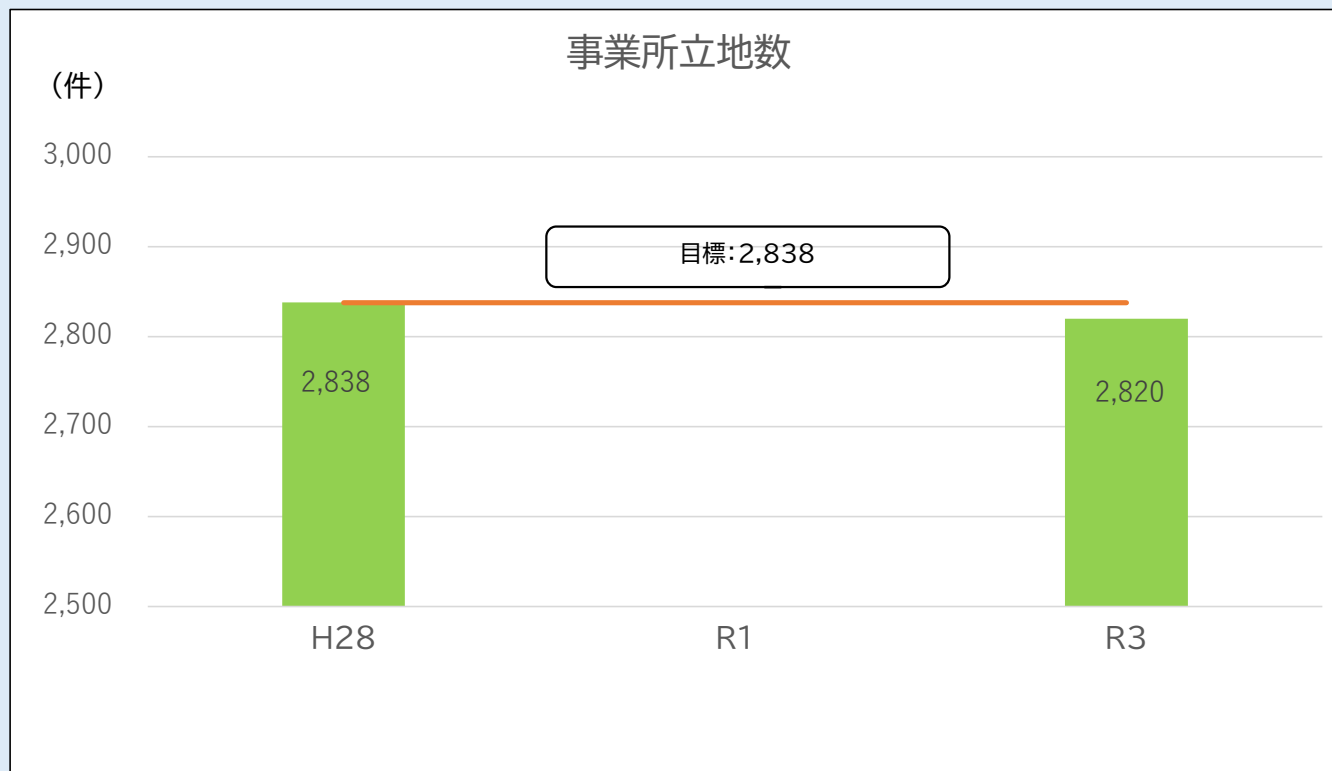
令和5年度の達成状況

○中間評価時点 2,820件 未達成

○年度評価時点 2,820件 **未達成**

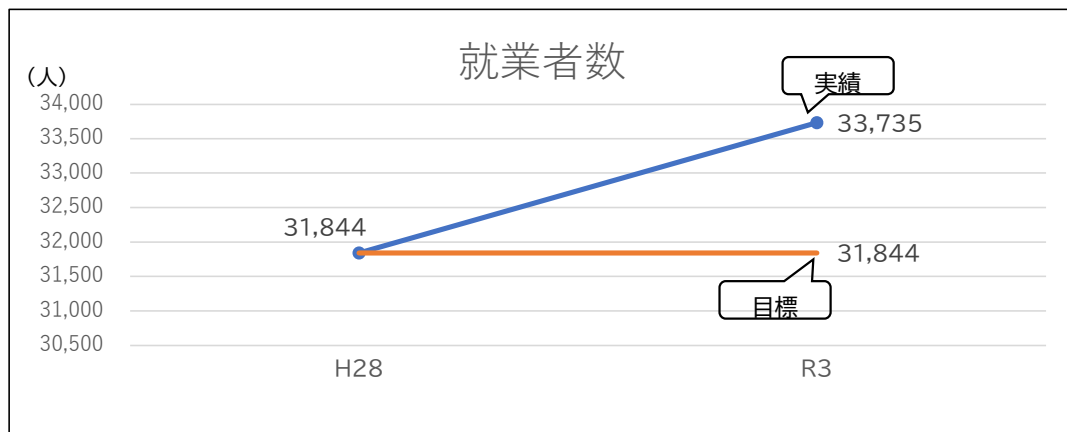
	H28	R1	R3
事業所立地数	2,838件	—	2,820件

※令和元年は、基礎調査の調査項目が変更になったため数値なし



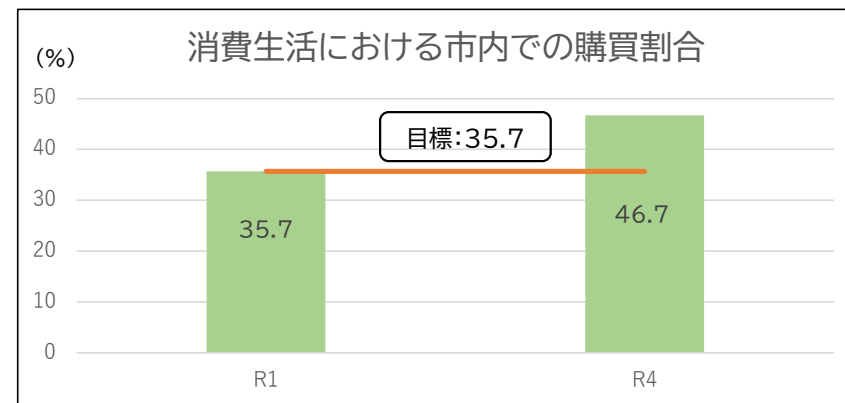
【しごと】立地条件を活かし、安心して働ける産業雇用体制をつくる

(1) 就労の支援とまちに活力をもたらす産業の創出



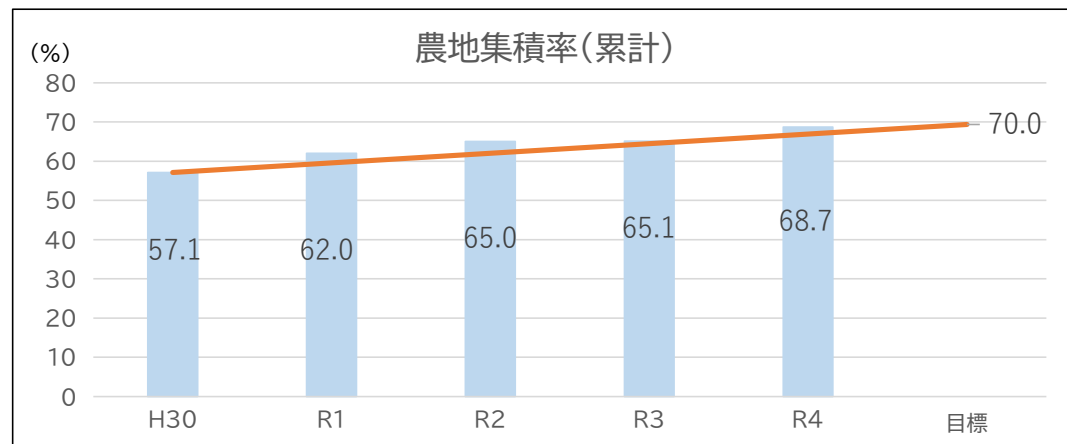
目標: 達成

(2) 中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化と消費者ニーズの創出

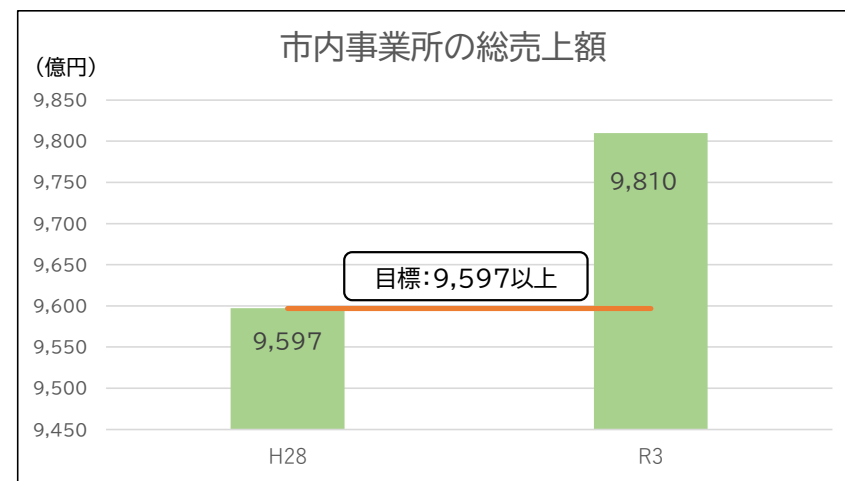


目標: 達成

(3) 農林業の振興支援による活性化の推進



目標: 未達成



目標: 達成

【しごと】立地条件を活かし、安心して働ける産業雇用体制をつくる

(1)就労の支援とまちに活力をもたらす産業の創出

若い世代や女性、高齢者、障がいのある人、外国人など誰もが能力を発揮し、生きがいを持って働くことができるよう、個々の実情に応じた就労支援や、魅力的な職場環境づくりに向けた支援を行いました。

併せて、道路交通の結節点に位置するという、まちの地勢的優位性を最大限に活かし、企業が進出したいくなる交通・立地環境整備支援、経済的支援、外国人を含め広い人材確保支援などの諸条件の整備を行い、積極的に企業立地や設備投資等を促進することにより、身近なところでいきいきと働くことのできる場の創出に努めました。

また、民間事業者と協力した事業展開や馬を素材とした商品開発等への支援などを通じて、馬を活用した雇用機会の創出につなげました。

【主な取組例】

就職困難者等の就労支援の促進、安心して働ける魅力ある職場づくり、新たな企業の立地促進、企業の人材確保・生産性向上の支援

令和5年度に実施した主な取組(5/7)

達成割合 6/7

取り組み内容	目標	中間実績 (R5.9末)	年度末実績 (R6.3末)
ワーク・ライフ・バランスの実現〔働き方改革や多様な働き方への理解を進めるとともに、女性活躍を推進〕	ワーク・ライフ・バランスの実現に向けたセミナーの開催(1回)、女性活躍セミナー開催(2回)、市内企業への啓発チラシの配布。 地域女性活躍推進交付金を活用しながら、女性活躍支援にむけた取り組みを行う。	・教育資金・家事シェアに関するセミナー 各1回開催 ・女性活躍をテーマにしたオンラインセミナー実施に向け準備	・教育資金・家事シェアに関するセミナー 各1回開催 ・女性活躍をテーマにしたオンラインセミナー 開催 ・市内企業へ啓発チラシを2回配布
トップセールスの展開と企業の立地促進	工業団地の地区計画決定 2件	2件	3件
東部地区等開発整備の促進	東部地区新産業拠点における道路整備工事完了(第1期事業用地まで)および市整備区間の工業用水道施設設置の詳細設計の実施	・第1期事業用地までの道路整備工事については、歩車道境界と舗装を除いて完了 ・市整備区間の工業用水道施設設置の詳細設計実施中	・第1期事業用地までの道路整備工事について道路付属施設を残して完了。 ・市整備区間の工業用水道管路詳細設計完了。
市内企業の人材確保支援〔市内企業の魅力情報発信〕	栗東市企業の魅力情報発信冊子掲載事業者40者	40者	51者
中小企業・小規模事業者の生産性向上支援〔中小企業者等の先端設備投資への支援〕	認定件数20件	5件	13件

【しごと】立地条件を活かし、安心して働ける産業雇用体制をつくる

(2) 中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化と消費者ニーズの創出

地域の雇用や経済を支える中小企業・小規模事業者について、国・県の施策を活用しつつ、各種助成の実施や相談サポート体制の充実により創業支援、事業機会拡大や持続的発展に向けた支援を行いました。

併せて、消費者のニーズとのマッチングによる市内小売業者の魅力や強みを活かした事業展開などにより、地域内での経済の好循環を生み出すための支援を行いました。

【主な取組例】

中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化支援、消費者ニーズを踏まえたまちのにぎわいの創出

令和5年度に実施した主な取組(6/6)

達成割合 3/6

取り組み内容	目標	中間実績 (R5.9末)	年度末実績 (R6.3末)
関係機関等の連携によるサポート体制と相談体制による支援〔りっとう経営なんでも相談会の実施〕	相談件数24件	10件	18件
経営基盤の強化と資金の支援〔信用保証料助成制度の実施〕	助成件数30件	2件	9件
創業活動への支援〔創業支援融資利子補給金制度の実施〕	補給件数31件	0件	21件
個店の魅力向上〔りっとうバル事業の実施〕	バル参加店70店	78店	78店
空き店舗等対策の拡充〔空き店舗等活用促進事業補助金制度の実施〕	補助件数5件	8件	10件
地域経済の再活性化に向けたさらなる支援〔りっとうプレミアム付商品券2023への支援〕	商品券取扱店舗300店	300店	317店

【しごと】立地条件を活かし、安心して働ける産業雇用体制をつくる

(3)農林業の振興支援による活性化の推進

高齢化、担い手不足などの課題解消に向け、新規就農者・定年帰農者への支援に取り組みました。

また、こだわり農業を推進することにより、農産物の付加価値を高めるとともに、市内における消費拡大(地産地消)の推進や、多様な土地利用により遊休農地等の解消を図りました。また、林業については、森林環境譲与税の活用による森林の整備と市内産材の好循環を進めることなどにより、森林の有する多目的機能を確保していきました。

【主な取組例】

農業振興基本計画の推進、優良農地の確保と適正利用の推進、農業生産の充実、農業生産基盤の整備、森林資源の保全と活用

令和5年度に実施した主な取組(5/8)

達成割合 8/8

取り組み内容	目標	中間実績 (R5.9末)	年度末実績 (R6.3末)
集落営農組織の法人化と認定農業者への支援〔営農規模の拡大や農産物の増産による生産の効率化及び販路拡大促進〕	集落営農組織の法人化数 認定農業者の計画認定数	集落営農 5法人 認定農業者 23経営体	集落営農 5法人 認定農業者 23経営体
認定農業者等の農業の担い手に向けた支援強化〔農業機械・施設園芸の整備に係る補助事業の拡大〕	認定農業者向け機械補助のR6予算計上経営体数 2経営体	1経営体	3経営体
こんぜの里周辺施設の公共施設マネジメントの推進	民間事業者への施設運営の実施に向け取り組む	民間活力導入に向けた前 提条件の整理を完了	民間事業者へヒアリング 等の実施を行い、指定管 理について意向を確認
市民参加による野菜教室の開催〔種まきから販売までの体験〕	野菜教室への新規参加人数 10人	12人	12人
社会基盤となる道路ネットワークの整備促進〔林道の待避所設計の実施〕	金勝林道待避所(5箇所)設計完了	金勝林道待避所(5箇所) の設計完了	金勝林道待避所(5箇所) の設計完了

【しごと】立地条件を活かし、安心して働ける産業雇用体制をつくる

中間評価（R5.9.30時点）

一次評価

評価指標より、就業者数は増加しているものの、事業所立地数は減少しており、栗東市の経済活力に影響を与える事業所立地への取り組みを重視して行う必要があることから、「信用保証料助成制度の実施」等による市内企業の経営基盤の強化を図るとともに、下半期は令和6年1月より開始する「創業支援融資利子補給金制度の実施」等の市内で創業する事業者への支援も行っていく必要があります。

二次評価

市内における職の有無は人口の社会増減にも大きく関わっており、新たな産業の立地がまちの発展につながっていくと考えられる。新型コロナウイルスの終息に伴い、企業の立地意欲が高まっていることから、機会を逃がさないように尽力いただきたい。

年度評価

一次評価

重要業績指標である“従業者数”“市内事業所の総売上”は目標を上回る水準となっているものの、数値目標の“事業所立地数”は減少していることから、既存事業者への支援策と企業立地の促進や創業活動への支援策を継続して行う必要があります。

また、農業の生産性向上や担い手支援を図り、農業の活性化を推進する必要があります。

二次評価

※地方創生懇談会にて意見をうかがいます